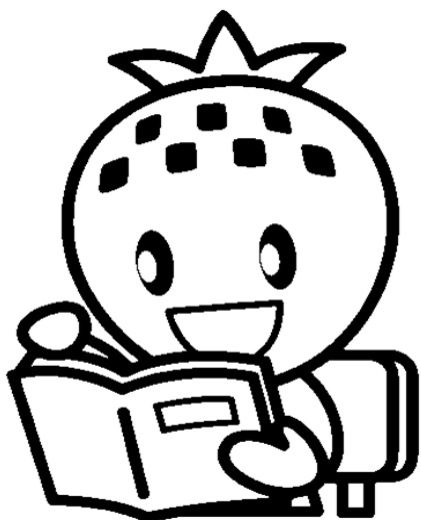


どの^{ほん}本
よもうかな…

Vol.27

～よしみ図書館のすすめる本～



よ し み ち ょ う り つ と し ょ か ん
吉見町立図書館

で あ っ て ほ
出会って欲しい…

じんせい いろど たし いっさつ
人生を彩る確かな一冊

たくさんの^{ほん まえ}本を前にして

どの本よもうかな… と悩^{なや}んだことが

ありませんか。

このリストは図書館が選書^{せんしよ}の一助^{いちじょ}になればと

作成^{さくせい}したものです。

みなさんがたくさんの良書^{りょうしよ}と出会^{であ}えますように…



どの本よもうかな… Vol.27

2025年11月発行

吉見町立図書館（図書交流館内）吉見町大字中新井500-1

☎ 0493 (54) 1517 FAX 0493 (54) 2031

ネコになりたかったクモのルイージ

ミシェル・ヌードセン さく/ケビン・ホークス え
/福本友美子 やく 岩崎書店

みなさん、クモというと どんなクモをおも
うかべますか？

小さい ちゃいろいクモ でしょうか、あ
しがながくて くらときいろのしまもようのク
モでしょうか？

このおはなしにでてくるクモは、てのひらく
らい大きくて けむくじらのクモです。なん
とネコにまちがわれてしまうほどです。

ネコとしておばさんと
くらすことになったクモ
のルイージは、ばれずに
くらせるのでしょうか。

ドキドキして、さいご
にはあたたかいきもちに
なるおはなしです。



リパの^{にわ}おいしい庭づくり

福井さとこ 作・絵
のら書店

リパは、うでのいい庭師^{にわし}です。

このおはなしは、リパが^{しょうがっこう}小学校にいくところ
からはじまります。小学校の庭づくりをたのま
れたのです。リパは、かんりにんのミルコと子
どもたちといっしょに庭をつくりはじめます。
たべのこしや、かれ^は葉からつくった たい^ひ肥と
土^{つち}をまぜて、そこにやさいとハーブのたねや
なえをうえて…。

どんなすてきな庭が
できるでしょうか。

よむとじぶんの庭を
つくりたくなるおはな
しです。



ダンゴムシ

今森光彦 文・写真
アリス館

ダンゴムシを^み見たことありますか。^{かれは}枯^{した}葉の下
や、^{ひかげ}日陰にかくれている^{むし}虫ですね。

虫といっても^{こんちゅう}昆虫ではないんです。では、ど
んなものの^{なかま}仲間なのでしょう。^{しゃしん}写真や^{ぶんしょう}文章でわ
かりやすく^{しょうかい}紹介されています。ダンゴムシの^{あか}赤
ちゃんの^でこともしっかり出てきます。

^お落^はち葉の下を
のぞいてみたら、
ダンゴムシばか
^{いろいろ}りでなく色々な
虫が…。



アマガエルとくらす

山内祥子 文／片山健 絵
福音館書店

アマガエルが^{だっぴ}脱皮するって知^しっている？

これは、^{さくしゃ}作者がアマガエルと14年^{ねん}くらした
^{せいかつ}生活の中で見つけた^{なか}たくさんの^みふしぎです。

作者が^{なが}流しの中で見つけた^{いっぴき}一匹の「アマガエル」。
^{まいとし}毎年、^{おな}同じ季節に^{きせつ}流しにやってきて、つ
いに家^{いえ}にいついてしまったアマガエルと、じっ
くりつき合^あった作者がつけた^{きろく}記録です。

「よおーく見ること！」

これが^{かがく}科学には
^{だいじ}大事な^{こと}なん
だね。



じゅげむの夏

最上一平 作 / マメイケダ 絵
佼成出版社

このおはなしは、「ぼく」の4年生の夏休みのおはなし。

「ぼく」には、同じ集落のともだちが3人いる。そのうちの一人かっちゃん、筋ジストロフィーという病気だ。筋肉がだんだんやせていく病気で、今はゆっくりとしか歩けない。

そんなかっちゃんが「4年生の夏休みを最高の夏休みにしようよ」と宣言した。ねがいをはなえてあげたくて、ぼくらは綿密に計画をねって冒険に出かけることに…。



机の下ウサキチ

岡田淳 作
偕成社

おじいちゃんの家でひとりですばんをしていた小学生の一平。おじいちゃんの家が雷で停電になり、書斎の古い机の下にもぐりこむとそこはふしぎな野原だった。

ふしぎな野原を歩いていくと、ウサキチというなまえの大きなウサギにキョチとよばれ、ずっとまっていたと言われる。

一平は、ウサキチがかなしそうにするのを気のどくに思い、キョチのふりをしてウサキチのなくしたはねる力をとりもどすために旅に出ることにする。ここはすむ冒険ファンタジー。



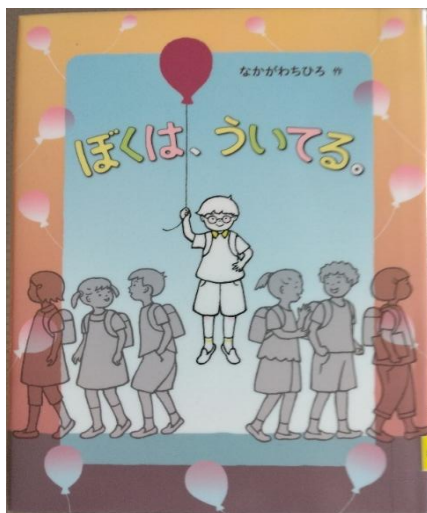
ぼくは、ういてる。

なかがわちひろ 作
のら書店

いっぺい
一平くんは、ときどきういてる。たいくつして、ほかの人とちがうことをかんがえているときや、なにかにむちゅうになってるときに、うきやすい。

そんな一平くん、ある日おなじクラスの山田ほのかさんも、ういてることに気づいた。はなしてみたら、一平くんがういているのは、ばれ
ばれだって。ほのかさんとたのしくおはなししてスキップしてかえた。

でも、次の日にほのかさんは、ういてなくて…。



リリの思い出せないものがたり

たかどのほうこ 作／高橋和枝 絵
ポプラ社

リリちゃんには、どうしても思い出せないことがあります。2才くらいのときに、おばあちゃんの家いえ にわの庭で、なにかとてもおもしろいような…、ふしぎなような…、とにかくとてもとてもいいものを見たような気がするのです。

しょうがく ねんせい なつ
小学2年生の夏、リリちゃんはおばあちゃんの家で、おばあちゃんのお友だちのフサ子こさんにあえます。

フサ子さんと、おばあちゃんの家おもの思い出をはなししていたら、ふしぎなきもちになって…。

リリちゃんは思い出せないことを思い出せるのでしょうか？



トクベツキューカ、はじめました！

清水晴木 作／いつか 絵
岩崎書店

みなさんは、一年の中で一日だけ好きな日に
学校が休めるのなら、どんな事をしますか？

このおはなしは、一年の中で一日だけ学校を休
める特別な校則のある小学校のおはなしです。

雪が嫌いだから雪の日に休みを取った凧、友
だちで板挟みになって迷っているさくら、友だ
ちと自転車旅行に行くために休みを取った悠
真。

他にも特別休暇をめぐ
って様々な思いや悩みを
抱えている子達が迷いな
がら成長していく姿を描
いた短編集です。

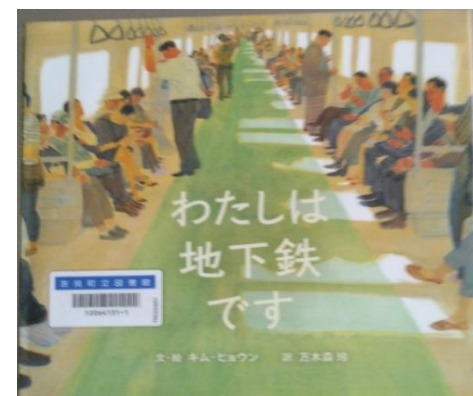


わたしは地下鉄です

キム・ヒョウン文・絵／万木森玲 訳
岩崎書店

このおはなしは、ソウルの地下鉄のおはなし
です。地下鉄は、毎日色々な人をのせて走りま
す。かけっこが得意なワンジュさんや、娘と孫
が好きなタコとアワビを海からとってきたおば
あさん、ふたりの子どもをつれたおかあさん、
ほかにもたくさん。目には見えないひとりひと
りの物語をのせて今日も走っています。

地下鉄のあたたかいおもいに、こころがあた
たかくなるおはなしです。



うみ 海にしずんだクジラ

メリッサ・スチュワート 文／ロブ・ダンラヴィ 絵
／千葉茂樹 訳／藤原義弘 日本語版監修 BL出版

うみ およ
海を泳いでいるクジラが死んだらどうなる
おも
と思いますか？

クジラは死ぬと海にしずみ、たくさんの生き
もの た
物に食べられます。深海でくらす生き物たちに
しんかい
とって、クジラはたくさんの命をささえてくれ
いのち
るすばらしいおくりものなのです。

このおはなしは、どのようにクジラが深海の
いきものをささえるかがよくわかるおはなしで
す。深海の世界をのぞいてみましょう。



せかい なっとう たんけん 世界の納豆をめぐる探検

高野秀行 文・写真／スケラッコ 絵
福音館書店

この本は、納豆が大好きな高野さんが納豆について
しら
調べたことを書いた本です。

にほん いま むかしつく かた でんとうてき た かた
日本の納豆の今と昔の作り方、伝統的な食べ方か
ら、がいこく
外国の納豆の作り方、食べ方まで様々なことが書
かれています。おもしろ
面白いのは、作り方や材料が違ってい
ざいりよう ちが
ても、ちゃんと納豆の味やにおいがすることです。

高野さんは、実際に様々な国に行き、作り方を
じっさい
見て
作った納豆を食べた
ようす
様子をくわしく書いて

いるので、読むと世界
の納豆を食べた気分
きぶん
になれます。知っている
し
ようで知らない納豆の
せかい たんけん
世界を探検してみませ
んか？



動物の義足やさん

沢田俊子 文
講談社

人間と同じように、動物たちにも義足や装具を使っ
て歩けるようになってもらいたい。動物用の義足や装
具を専門に作る人がいない時代に、そう思い立った島
田さんは会社に勤めながら動物病院へ通って、動物用
の装具の勉強を始めました。

そして、今では獣医師の指導を受け、装具を装着す
る動物や飼い主に
寄り添い作った装具
は三万匹分になりました。

この本は、島田さ
んの一生懸命な姿に
胸が熱くなる一冊で
す。



マイヤーさんと大きくなりすぎた犬

リリアン・ムーア、レオーネ・アデルソン作
／kei saito 絵／小宮由 訳 さ・え・ら書房

マイヤーさんは犬の捕獲人です。のら犬をつかま
える人です。のら犬だけではなく飼い犬をつれてゆくこ
ともあります。マイヤーさんは、つれていった犬をど
うしているのでしょうか？

ノディンさん一家は、あるペットショップで小さい
白い犬を見かけました。白くころころしたとてもかわ
い子犬でした。

そして、この犬に
「バターボール」と
な
名づけ、飼うことに
しました。

子犬は、どんどん、
どんどん、どんどん、
どんどん大きくなり
ました…。



ヨシ まん せん
3万7千キロをおよいだウミガメのはなし
リン・コックス 文／リチャード・ジョーンズ 絵
／いわじょうよしひと 訳 あすなろ書房

このおはなしは、オーストラリアのはまべでアカウミガメのあかちゃんが生まれたところからはじまります。

アカウミガメのあかちゃんは、海をたびして大きくなっていきました。5年がすぎ赤ちゃんではなくなったアカウミガメは、ある日、あみにひっかかってしまいます。それをたすけてくれたのは、日本の漁船のりょうしさん。ヨシと名前をつけて南アフリカの水族館にあずけてくれました。その後、20歳になったヨシは、海にかえることになり…。ヨシはぶじにかえることができるのでしょうか？



クマよ

星野道夫 文・写真
福音館書店

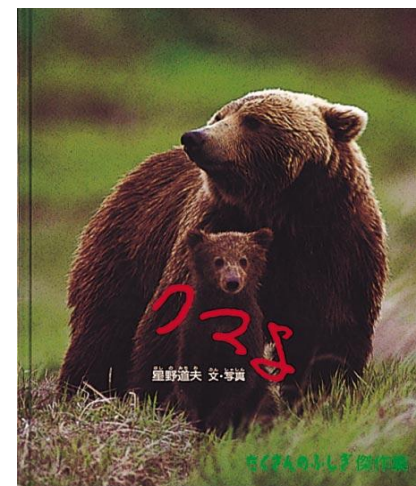
今年は、クマの目撃情報が日本全国で報告されています。果たして、クマは人間の敵なのでしょうか。里山にクマの好みの果物がなくなっていることにも一因があるのでは？

自然などが破壊され（温暖化の影響などにより）クマや野生動物と人間が共存する方法はないのかな？

クマを愛し、アラスカの自然の中で生きるクマとともに生き、そして死んだ星野道夫。彼の写真と

言葉がしずかにあなたの心にしみるでしょう。

ともに生きる道、捜しませんか。



こ 子ねずみウォルターはのんびりや

マージョリー・フラック 作・絵
おびかゆうこ 訳 徳間書店

ウォルターは、とても^やのんびり屋です。^{かぞく}家族のおに
いさんやおねえさんが^{あさ}朝ごはんを^た食べているとき、
やっとぐずぐずきがえをして、みんなが^で出かけてしま
うと、ようやく^ひのんびり朝ごはんを食べるのです。

ある日、ウォルターが^{いえ}家にかえると、コンロもテー
ブルもベッドもいすもなくなっていました…。

そこでウォルターは、
家族をさがしに行くこと
にしました。

ウォルターは、はしっ
てはしって…。



しんじつ くち 真実の口

いとうみく 著
講談社

中学三年の冬、おれは^{おな}同じクラスの^{みなと となり}湊と隣のクラス
の七海と一緒に、^{ななみ いっしょ}通りで^{とお}座り込んでいた^{すわ こ}小さい女の子^{ちい おんな こ}
を^{こうばん}交番へ^つ連れて行った。^い違和感^{いわかん}はあったけれど、それ
が^{ただ}正しいと思^{おも}っていた。

でも、違和感^きは消えなくて、^{こころ}心のどこかでずっと
^ひ引っかかっている。それは、湊も七海も同じだったみた

いで、おれたちは
^{たし}確かめることにした。

これは、おれが^{いま}今
まで^{きづ}気付かなかった
^{だいじ}大事なことに^い気付く
ものがたり
物語。



としょかん たからもの
図書館がくれた宝物

ケイト・アルバス作／櫛田理絵 訳
徳間書店

だいにじ せかいたいせんちゅう
第二次世界大戦中のロンドン、ウィリアム、エドマ
ンド、アンナの兄弟は、^{きょうだい}親代わりのおばあさんが^な亡く
なり、自分たち以外家族がいなくなってしまうまし
た。

そこで、^{くうしゅう}空襲を受けるかもしれないロンドンから^あ安
ぜんぜん ^{ばんしょ}ばしょ ^{いちじてき}一時的に移住する^{いじゅう}学童疎開に参加して、疎
開先で^{さき}保護者となる「^{ほごしゃ}後見人」を探することにしまし
た。^な慣れない^{かんきょう}環境での生活や、^{せいかつ}新たな^{あら}人間関係の中で
^{さんきょうだいの}三兄弟の楽しみは
^{むら}村の^{としょかん}図書館に行くことでした。
^{つら}辛い中에서도^{なか}支え合う^{さき}三兄弟の
姿に、^{おも}思わず^{おうえん}応援したくなる
おはなしです。



ゆうびんや
みつばの郵便屋さん

小野寺史宜 著
ポプラ社

^{ひらもとあきひろ}平本秋宏は^{さい}25歳の^{ゆうびんはいたつじん}郵便配達員、^{みつば}みつばと^{よつは}四葉の^ち地
区を担当している。^く兄弟は^{たんとう}年子の^{きょうだい}兄が^{としご}一人いて、^{あに}ひとり
ちょっとした^{にんき}人気タレントだ。^{かお}顔が似ているからよく
^{こえ}声をかけられる。

バイクでの^{はいたつじ}配達時は^{あんぜんうんてん}安全運転を^{てってい}徹底し、^{まえ}配達の^{まへ}前の
^{あてなかくにん}宛名確認は^{ていねい}丁寧に行っている。

このおはなしは、そんな
^{ゆうびんや}みつばの郵便屋さんの
^{いちねんかん}一年間のおはなし。
^{いっとう}一通の手紙がもたらす
^{きせき}奇跡に^{こころ}きっと心が^{あたた}暖か
くなるでしょう。



りすのパナシ

リダ・フォシェ文／フェードル・ロジャンコフスキー 絵
／いしいももこ 訳編 童話館出版

りすのキックとルケットに4ひきの子りすが生まれました。名前^{なまえ}はパナシ、フォレ、ルタンとフラムです。きょうだい^{なか}の中でもパナシはやんちゃで、くいしんぼうです。パナシは、ある日^ひ、森^{もり}のばんにんにつかまり、おりにいれられてしまいました。パナシは、さびしくておりからにげだしました。はしってはしってとんで巣^すにかえったけど、巣の中はからっぽ。パナシは、大好きな家族^{だいす かのぞく あ}に会えるかな？



この銃弾を忘れない

マイテ・カランサ作／宇野和美 訳
徳間書店

みなさんは、ピカソの「ゲルニカ」の絵^えを観たことがありますか？ドイツ空軍^{くうぐん}による無差別爆撃^{むさべつ ばくげき}を描いた絵^か画^がです。戦争^{せんそう}の悲惨^{ひさん}さ人びと^{ひと}の苦しみを伝^{つた}えています。

これは、その時代^{じだい}の話^{はなし}。

1938年^{ねん}スペインでの内戦^{ないせん}により、家族^{かぞく}がバラバラになり村人^{むらびと}同士^{どうし}が争^{あらそ}うようになった。13才^{さい}のミゲル

は、収容所^{しゅうようじょ}に入れられた

父^{ちち}を助^{たす}けるため、愛犬^{あいけん}の

グレタ^つを連れて200km

はな離れたインフィエストに

たび旅^{たび}をすることになる。

オオカミ^{もり}のいる森^{もり}をぬ

け、様々^{さまさま}な人^{ひと}と出会^{であ}った

り、ミゲルは父^{ちち}と会える

だろうか…。



にんじん

ジュール・ルナアル 著／岸田国土 訳
新学社

みな いま れっとうかん かん
皆さんは、今まで劣等感を感じたことがありますか？

きょうだい かん ひかく はら た
兄弟間で比較されて、腹を立てたことがありますか？

とう かあ かんけい
お父さんお母さんとの関係は、どうでしょう？
「にんじん」とは、ルビック家の末っ子で髪は赤く、
かお しょうねん
顔がそばかすだらけの少年のあだな。お母さんは、に
んじんを兄や姉とくらべて差別し、つらくあたります

…。
かぞく かに
家族や家庭とは、どん

なところがいいか？

にんげん あい なに
人間の愛とは何か？

じりつ
自立とは何か？

かんが
そんなことを考えさせ
られます。



モモ

ミヒヤエル・エンデ 作／大島かおり 訳
岩波書店

モモは、いつどこからやってきたかわからない孤児
です。“時間泥棒” 灰色の男たちから、時間を取り戻
してくれた女の子です。

セカセカ生きることで、しぼりとった時間を盗む灰
色の男たち。人間が秒きざみの時間に追いかけられ、
こころ 心がひからびきっていきます。

みな どうでしょう？「あれをやらなければ」
「これもやらなければ」と心忙しく生きていません
か。

もっとゆっくり生きる
時間を楽しんでもいいの
かも…。

